

健康ノート

関節リウマチ

かんせつりうまち

近年、画期的な薬剤の登場により、
関節リウマチは不治の病ではなくなりつつあります。

しかし、普及には時間がかかるため、
患者間で格差が生じている懸念も。

「だからこそ、患者さん自身も勉強してほしい」と説く
専門医の小井戸則彦先生にくわしく聞きました。

取材・文=松田慶子 イラスト=平岡 瞳 図=たにぎきけいこ



小井戸則彦

こいど・のりひこ

川崎リウマチ・内科クリニック院長。川崎市立川崎病院感染症科部長などを経て平成19年に同クリニックを開設。日本リウマチ財団リウマチ登録医、日本リウマチ学会専門医、日本内科学会認定医。藤田保健衛生大学医学部客員講師も兼任。関節リウマチの正しい知識の普及を図るため、講演活動も積極的に展開している。

Question 関節リウマチとは？

Answer 自己免疫疾患の一種で 全身を蝕む病気

関節リウマチは、関節だけに留まる病気と誤解されがちです。近年、発症のメカニズムが解明され、全身病である膠原病の一種を指す病名と、正式に位置づけられました。

膠原病は、本来異物を攻撃するはずの抗体が、自分を攻撃してしまう自己免疫疾患の代表です。何らかの

原因で自分自身の細胞を攻撃する自己抗体ができ、それが全身をめぐることで、抗体の種類ごとに特定の組織を攻撃します。関節に反応する抗体が生じて、関節の組織を攻撃し、炎症を起こす病気が関節リウマチです。

自己抗体の合成・生成には、遺伝因子、環境因子、感染症が関与していると考えられます。環境因子は性差、年齢、ストレスなどで、1対4で女性が多く、30〜50代が好発年齢です。感染症やストレスは、免疫バランスを崩すことが引き金になると考えられます。

リウマチ専門医を探したい理由

長い期間、関節リウマチが関節だけの病気であると考えられてきたため、最初に整形外科を受診する人は多くいます。

病気が進行した場合は、炎症で厚くなった滑膜を取り除く手術や、人工関節を入れる手術が有効で、整形外科的な治療は大切です。一方で、膠原病は全身の病気であるうえ、薬物療法を進めるには副作用の心配もあり、内科的な診察は不可欠です。このため、内科と整形外科両方にくわしいリウマチ専門医を受診することが望ましいのです。近年、整形外科と内科が連携し「リウマチセンター」を設立する例も増えてきています。

